

特別講演 2

「心不全と利尿薬 ～新時代のうっ血管理～」

木原循環器科内科医院 院長

木原 一 先生

人口高齢化によりあらゆる心疾患の終末像の心不全患者は著しく増加し、日常診療でも呼吸苦、全身浮腫、胸水などを伴い搬入される患者さんにあふれ、正に心不全 PANDEMIC 時代の到来を予感させる。そのような時代に於いて、我々実地医科は慢性心不全の患者に対し RAA 系阻害剤、 β 遮断剤などの標準治療薬はもとより stageC 以降の鬱血をきたし緊急入院した患者群に対し、如何に腎保護や他の臓器保護を考慮しながら鬱血解除し退院へ導くか？、また再入院回避するか？が重要な鍵となる。サムスカ錠は平成 22 年 12 月発売となり、当院では現在に至るまで 1,000 症例をはるかに上回る症例に本剤を使用し、治療抵抗性心不全、今まで他医で入退院を繰り返していた患者群に対しては急性期のみならず外来継続療法も行っている。多くは少量 furosemide と spironolactone とのいわゆる“combination decongestion therapy”である。日常診療より得たこれらの経験を症例を提示しながら熱く語りたい。